

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	教育基本法に則り、生徒一人一人の個性と能力を見つめながら、その将来を洞察した取組の実践 ○「高い志」と「切り拓く力」……八高のよき伝統・校風のもと、高い志をもち知・徳・体の調和のとれた心身ともに逞しい人間の育成 ○「学び」の充実……「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、学業や部活動等において自ら考え行動するとともに、協働して探究する力の育成				学校整理番号	10	
(2) 現状と課題	育成を目指す資質・能力等をスクール・ポリシーとして策定したところであり、具体的にどのような教育活動を通してその資質・能力を身に付けさせるのかを検討する必要がある。 教員主導の学習スタイルから、生徒自らが自分に必要な学習を見出し、それに取り組む学習スタイルへの転換を進めている。時には教員が課題を与え、生徒を導いていくことも必要であることから、そのバランスとメリハリを考え、家庭学習の質の向上を図る必要がある。 生徒を取り巻く環境の変化により、生徒の悩みが複雑化、多様化しており、簡単には解決できない課題を抱える生徒が増えていることから、生徒が試行錯誤を重ねながら仲間とともに逆境を乗り越える力を育成する必要がある。				学 校 名	青森県立八戸高等学校	
(3) 重点目標	1 確かな学力を育む(学習指導)				全日制の課程	自己評価実施日	令和 6年12月20日(金)
	2 豊かな心を育む(生徒指導等)						
	3 志の実現を支援する(進路指導)						
	4 開かれた学校づくりを推進する(外部との連携)						
(4) 結果の公表	ホームページで公表する				学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 4日(火)	
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成							
大学関係者 1名 地域代表者 1名 元県立学校校長 1名 元父母と教師の会会員 1名							
自 己 評 価					学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	確かな学力を育む(学習指導)	1 授業の徹底(授業第一)	日頃から主体的・対話的で深い学びを意識し積極的に授業改善に取り組んでおり、授業中の発問の工夫やICTの活用、生徒同士のグループワークの実施等により、学習意欲を高める授業を実践できた。生徒による授業アンケートの結果からもそれが実践できていることが読み取れた。	A	授業の工夫、改善は永遠の課題であるが、研修等を活用し教員の指導力向上を図ってほしい。特に、八高に求められることが大きいだけに教員の負担も大きいと思うが、「八高の教員」としての自負を感じて指導に邁進してほしい。		
		2 新学習指導要領に向けた授業改善	スクール・ポリシーで示した育成を目指す資質・能力と各教科における学習活動との関連を検討し、各教科においてどの資質・能力を重点的に育成するかを決定した。 学習評価の3つの観点の連動性の視点で各教科において評価方法及び指導方法の改善を行った。	B	教職員はグラウンドデザインに掲げた生徒の育成を目指すべく、業務が多忙にもかかわらず意欲的に取り組んでいる。 学習したことが、主観的な評価と客観的な評価で生徒や教員が実感できる方策を検討してほしい。		
ICTの活用が進み、授業が効率よく進むようになったが、生徒の理解力向上につながっているかどうかの分析が不十分であることから、授業アンケート等により検証を行う。							
スクール・ポリシーで掲げた資質・能力を授業を通じて育成するため、教科会議等で授業の課題を明確にし、具体的な改善策を検討していく。 「主体的に学習に取り組む態度」の評価が高い一方、他の2観点が低い生徒に対して、努力が成果に結びつくよう学習方法の助言など、個別対応をきめ細かく行う。							

2	豊かな心を育む (生徒指導等)	1 「掃除・挨拶・5分前」 の徹底	全学年とも学年の目標の一つに挙げており、登校時の挨拶指導など教職員一丸となって指導を徹底、継続している。特定の生徒が遅刻する傾向があったが、登校時に学年教員が声掛けしたことにより改善が見られた。	A	しっかりと指導していただき、今後も継続していただきたい。 落葉が多く苦慮しているとのことだが、こういう問題の解決を生徒にも考えてもらおうと、生徒の学びにつながると思う。	遅刻する生徒は、状況が良くなったより悪くなったりを繰り返す傾向があることから、粘り強く指導を継続する。
		2 一人一人に寄り添った教育相談	学業や進路、人間関係など様々な悩みを抱える生徒に対して、学年、教科担当者、部活動顧問、養護教諭、スクールカウンセラーなど多方面から寄り添い助言指導してきた。 また、いじめ問題・特別支援等教育相談委員会を定期的に開催し、生徒についての情報共有を行った。 さらに、いじめに関するアンケート調査を年3回行い、その結果を共有して適切に対応した。	A	不登校が昨年度より大きく減少したということで安堵している。しかしながら、予備群は一定数存在していると思われるので、引き続き生徒のケアに努めていただきたい。 面談やいじめアンケートはしっかりと行われている。今後は面談方法等の工夫に努めていただきたい。	学校内に相談できる大人を増やすことが安心して通える学校づくりにつながることから、学年以外の教員と相談しやすい仕組みをつくる。 近年、学校を休みがちになった生徒が相談室を利用しながら登校し、教室復帰できた事例も見られることから、心身を調整する場として相談室を有効に活用するとともに、生徒理解を深めるための教員研修を実施する。
		3 学校行事・特別活動等での自己の伸長	文化祭、修学旅行、再開した海外研修等において、生徒が主体となって活動する場面を意識的に設けることで、生徒の人的な成長に資することができた。 また、本校卒業生による人生の捉え方や著名人によるコミュニケーション能力の考え方を学ぶ機会を設け、生徒の見識を深めることができた。	A	海外研修が無事に実施できたことは大変喜ばしい。今後は欧米も視野に生徒の活躍の場を広げてほしい。 海外研修の利点は理解します。参加人数等、検討してもよい課題もあるかと思います。	レジリエンスの育成が本校の課題の一つであることから、逆境を乗り越える力を育成するための取り組みを実施する。 海外研修などの校外での活動は価値観を大きく変える機会となり得ることから、積極的に学校外での活動を紹介し、参加を推奨する。
		4 部活動の充実と学業との両立	文武両道という校風のもと、生徒が主体となった部活動を通して、自己を振り返り、よりよい方向へ修正する力の育成ができた。大会や各種コンクール等で活躍した生徒も多く、学校の活性化にもつながった。	A	文武両道で学業以外にも本気になるものに取り組んでほしい。 部活動は現状の取り組みの維持に努めていただきたい。	部活動に係る活動方針のもと、学業と部活動のバランスに配慮しながら活動日と休養日を設定し、適切に活動する。 教員の負担軽減が課題であることから部活動指導員の活用等を検討する。
		5 読書活動の推進	本校教員が推薦した課題図書の中から生徒が1冊選んで感想文を作成する校内読書感想文コンクールを今年度も継続して実施した。また、優秀作品を外部コンクールに出品し、多くの表彰をいただいた。 図書館通信や生徒玄関の電子掲示板を通じて新刊図書や図書館利用法等の情報発信を行った。	B	読書活動の推進に向け、より効果的な対策を期待します。	日常的に読書に親しむ習慣と、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けることを目的として、朝読書を導入する。 読書感想文コンクールは希望者を対象として継続する。

3	志の実現を支援する (進路指導)	1 3年間を見通した進路指導計画と実践	3年間を見通した進路指導計画を教員全体で共有し、授業、定期考査、実力テスト、校内模試の大きなサイクルを軸とした教科指導を実施するとともに、全教員による面接・小論文指導や難関大学、医学科志望者のためのプログラムなど、体系的、組織的、継続的な指導を行った。 働き方改革として平常講習及び校内模試の見直しを行った。	A	進路指導に関しては、進路指導部を中心に計画、実施されており、生徒の進路達成に向けて引き続き推進していただきたい。進路指導部は重点校としての業務が多く非常に多忙な分掌となっている。生徒に対応する時間がそのせいで少なくなるようなことは本末転倒である。業務を精査しながら事業の軽減も図ってほしい。 平常講習のコマ数削減は新たな挑戦として賛同しますが、利点、欠点を早々に把握、検証することを期待しています。	本校は重点校事業の運営を担当しているため、校内の取り組みに加えて、数多くの企画を運営しており、教員の負担が大きい。複数教員による対応、他分掌との連携等により、一部の教員だけに負担が集中しない体制を構築する。 次年度から平常講習や校内模試の実施方法を変更することが生徒の学力にどのような影響を与えるのかを検証する。
		2 二者面談等の充実	二者面談は、学習状況や困りごとの相談に加え、生徒を熱く温かい言葉で励まし、高い志の維持を支援することを目的として実施した。 また、面談の充実を図るために進路検討会を実施し、担任が教科担当者から生徒の現状と評価、目標達成に向けた助言を得る機会を設けた。	A	志と学習成果にギャップが生じた生徒に対する指導にも配慮してほしい。 定期的な面談が担任の先生との信頼関係づくりにとても有効である。担任の先生以外との面談を検討しているとのことで、セカンドオピニオンの効果に期待したい。	二者面談については保護者からも高い支持を得ており、今後も継続する。 模試結果などのデータ（数字）を超えて生徒が高い志望を維持することができる面談を実施する。
		3 大学入学共通テストへの対応	各教員の教材研究に加え、各種進路研究会で情報収集し、傾向等を分析した上で、結果を共有することで、より効果的な授業の実施につながった。 また、今年度から実施された教科「情報」について、昨年度決定した方針をもとに指導し、他教科と遜色ない成果を挙げることができた。	A	市内で最も情報を持っているのは八高の先生方だと思うので、生徒、保護者に提供してほしい。	今後も積極的に進路研究会等に参加し、入試情報を収集、学校全体で共有することで、生徒の進路志望達成を支援する。 教科「情報」については、他校の情報を得ながら、指導方法とテスト結果を分析し、必要に応じて本校の方針を改善する。
		4 記述力が身に付く指導	難関大学の入試を意識した基礎学力の定着と思考力、判断力、表現力の育成を意識した教科指導を実施した。 各種セミナー等に多くの教員が積極的に参加し、授業力、指導力を向上させた。	B	県内だけでなく東北、全国を見据えた指導をしてほしい。目標を高く持ち、全国を見据えた形で新たなステージを進んでほしい。	今後も各教員の指導力向上を図るため、教員研修への参加を積極的に支援する。特に、他校の教員と対面で意見交換等ができる研修は高い効果が期待できることから、そのような研修にも参加できるような計画を作成する。

4	開かれた学校づくりを推進する (外部との連携)	1 保護者、外部4団体との連携	公開授業を春と秋の2回実施し、保護者が学校に足を運ぶ機会を設けた。 また、各学年の分会を活発に行い、学年の情報の発信に加え、保護者向けの講演会を実施するなどの工夫を行った。 外部4団体の会合はほぼ計画通りに実施し、連携を深めることができた。海外研修の再開に当たっては後援会と同窓会から経済的な支援を受け、希望生徒全員が研修に参加することができた。	A	公開授業は毎年参観者の多さに驚かされる。関心の高さと期待の表れである。今後も連携してほしい。	保護者と学校との連絡にICTを活用することで双方の負担を軽減する。 外部4団体の活動について、より多くの学校関係者に理解を深めてもらうため、学校ホームページでこまめに情報発信する。 コロナ禍以降、実施できていない地区分会の在り方について検討する。
		2 ICT環境の整備とその活用	生徒は貸与されたタブレットを活用し、意欲的かつ効率的に探究活動で利用した。 文部科学省の「学校DX戦略アドバイザー事業」を活用し、「教育現場における生成AIの活用と留意点」をテーマとした教員研修を行った。	A	ICTの浸透がとてども進んでいる。ICTを考える力の育成ツールとして有効活用してほしい。先頭を切って事例をたくさん作ってほしい。	学校におけるICT関係業務が年々増加しているため、現在の体制では継続的な運用が困難であることから、各分掌の担当者で構成するICTチームを立ち上げる。 また、県から派遣されるICT支援員を効果的に活用する。
		3 学校HPの充実と更新増	全ての教員がホームページを更新できる環境となったことで、学校行事等の様子の発信が増え、閲覧数の増加につながった。昨年度10月末のリニューアル後の閲覧数は本年度3月の時点で12万件を超えた。	A	昨年度のホームページのリニューアルによって、こまめに様々な分掌から情報発信がなされている。非常に喜ばしい。	生徒の活動の様子がより具体的に伝わるよう、できる限り写真や生徒の感想を掲載する。
		4 学校評議員会等の活用	学校評議員会を6月と2月に実施し、八高の魅力を発信するための具体的な方法など、評議員からいただいた提言を学校教育活動の改善に役立てた。 また、学校行事の案内を学校評議員に送付し、今年度は公開授業に参加していただき助言を仰いだ。	A	評議員会に参加し、先生方がこんなに一生懸命に取り組んでいるんだと驚き、尊敬の念を持った。八高に入る生徒は地頭がある。こども達はできない、ではなく時間がかかるだけ。3年という限られた時間だが、信頼と愛情を持って今後もこどもたちに接してもらいたい。	学校評議員に学校行事を視察していただき、感想や助言をいただくことは本校にとって非常に有益であることから、次年度も継続して実践する。 また、今まで以上に保護者や地域の方々等が学校運営に参画できる体制を構築する。
		5 学校施設の開放等	公開授業、中学生の一日体験入学を実施し、保護者、中学生が本校の学校施設や教育活動を理解する機会を設けた。 申請があったときにはサッカー場や体育館、弓道場等を各種大会の会場として提供した。 本校生徒が出身中学校を訪問して本校の学校生活を紹介する取り組みを実施した。今年度は中学校側が希望した場合のみ教員の引率を行った。	A	これからの学校経営には地域との連携が必要不可欠であり、連携先や方法を精査し、地域のリーダー校としてよりよい連携を望む。 在学中に地域とつながりをたくさん設けてほしいと思う。地域にとっても優秀な生徒が活用でき、生徒にとっても実践的な経験が積めて有効である。	本校生徒の出身中学校訪問は、本校生徒、中学校生徒どちらにとっても有意義な取り組みであるため、次年度はさらに案内する学校を増やす方向である。 また、できるだけ本校教員が引率せずに生徒主体で実施できるよう、実際の様子を動画撮影し、再来年度の事前指導の資料の一つとする。

(11) 総括	スクール・ポリシーに基づく教育活動を円滑に実施できる環境を整えるため、1年間かけて具体策を検討し、次年度からの方針を決定した。決定した内容は生徒、保護者、学校関係者等と共有し、育成を目指す力が確実に生徒の身に付くよう実践していきたい。 確かな学力を育むための学習指導は本校が地域から最も期待されている点である。学習課題の提示方法に検討の余地があり、生徒が納得して取り組める状況をつくるために工夫していきたい。併せて、家庭学習の質の向上も図っていきたい。 二者面談の充実を図られており、生徒理解、生徒支援の本校の柱となっている。ストレスを感じている生徒をどうピックアップし対応するかが課題である。 生徒と向き合うことのできる時間を十分に確保し、教員がやりがいを持って働くことができる環境をつくることを目的として、半年間かけて全教員で次年度からの業務改善について検討してきた。決定した内容については実践と検証、改善をセットで行うことで、これまでの取り組みでの教育効果を維持できるように努めていく。 開かれた学校づくりをさらに推進していく必要があるため、今まで以上に保護者や学校関係者、地域住民の方々との連携を深め、ともに学校をつくる体制を整えていきたい。
---------	--